

定例会資料：報告(2)
令和5年9月28日
教育研究所

令和5年度全国学力・学習状況調査における 秋田市の結果について

● 調査概要 ●

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が、義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、教育施策の成果と課題を検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度から継続して実施してきました。

今年度の調査は、令和5年4月18日に、国語、算数・数学、中学校英語の教科に関する調査と、生活習慣や学習環境等についての質問紙調査が行われました。英語「話すこと」の調査は期間を設けて実施され、国が抽出した中学校の結果から推定した全国値のみが公表されました。

● 本市調査結果の概要 ●

【教科調査の概要「全般」】

- ・ 小学校6年生2,094名、中学校3年生1,986名が参加しました。
- ・ 国語、算数・数学、英語の各領域ごとの平均正答率は、小学校・中学校共に、全ての領域で、全国平均を上回りました。
- ・ 無解答率は、小学校では、算数の1問を除き、全国平均を下回りました。中学校では、国語の2問、数学の1問を除き、全国平均を下回りました。

【教科調査の概要「国語」】

- ・ 小学校では、文章の特徴の説明として適切なものを選択する問題の正答率は85%、資料に書かれている内容として適切なものを選択する問題の正答率は94%でした。
- ・ 条件に合わせて文章を書く問題の正答率は30%、資料を読んで分かったことをもとに自分の考えを書く問題の正答率は64%でした。複数の情報を用いて自分の考えが伝わるように書くことなどに課題があると考えられます。
- ・ 中学校では、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率は94%、インタビューの前に準備したメモの内容の説明として、適切なものを選択する問題の正答率は91%でした。
- ・ レポートの下書きの一部を直した意図として適切なものを選択する問題の正答率は58%、現代語で書かれた古典の作品を読み、表現の工夫などについて自分の考えを書く問題の正答率は56%でした。読み手の立場に立ち、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることや、根拠を明確にして考えをまとめることなどに課題があると考えられます。

【教科調査の概要「算数・数学」】

- ・ 小学校では、椅子の数と椅子を重ねたときの高さの関係を表した表から、椅子が5脚のときの高さを求める問題の正答率は94%、椅子の数と椅子を重ねた高さが比例の関係ではないことを説明する問題の正答率は90%でした。
- ・ 正三角形をつくるための角度を答える問題の正答率は21%、筆算の商の意味について、正しいものを選択する問題の正答率は48%でした。図形の意味や性質をもとに操作の見通しを立てることや、筆算と式を関連付けてとらえることに課題があると考えられます。

令和5年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

- ・中学校では、示された手順に従って計算結果を求める問題の正答率は91%、文字を用いた式の四則計算の正答率は85%でした。
- ・空間における平面が1つに決まる条件を選択する問題の正答率は29%、2つの箱ひげ図を比較してデータの分布の傾向を読み取り、説明する問題の正答率は34%でした。空間における直線や平面の位置関係を正しく理解することや、データの分布の傾向をとらえて、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられます。

【教科調査の概要「英語」】

- ・部屋の中の様子を説明する英語を聞き、内容を最も適切に表している絵を選択する問題の正答率は85%でした。
- ・社会的な問題に関する英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く問題の正答率は19%、学校生活について説明する文章を書く問題の正答率は7%でした。まとまりのある文章を読み、事実や自分の考えなどを整理し、一貫性のある文章を書くことなどに課題があると考えられます。

【児童生徒質問紙調査の概要】

〔自分自身について〕

- ・「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」など、自分自身のよさを知り、向上心を持って生活している子どもの割合が、全国平均を上回っています。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。

〔人との関わりについて〕

- ・「人が困っているときは、進んで助けている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」など、学校生活等において友だちや先生と良好に関わっている子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。

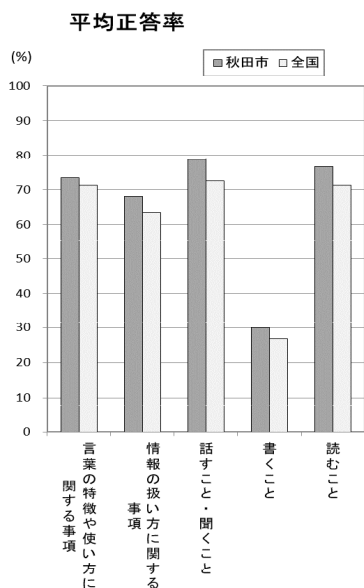
〔学習について〕

- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」など、主体的に学習活動に取り組んでいる子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。
- ・「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用した」については、昨年度と比べ改善は見られるものの、小学生では全国平均を下回り、中学生では全国平均を上回っています。

〔家庭生活について〕

- ・「毎日、もしくは、どちらかといえば毎日朝食を食べている」「家で自分で計画を立てて勉強をしている」など、基本的な生活習慣や、家庭での学習習慣を身に付けている子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。

小学校国語 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和5年度】



<言葉の特徴や使い方に関する事項> 問題 1 3

- 「くらべて（比べて）」の正しい送り仮名を選択する問題の正答率は92%、文章の特徴の説明として適切なものを選択する問題の正答率は85%でした。
- 「いがい（意外）」を漢字で書く問題の正答率は59%でした。文や文章の中で、漢字を正しく使うことに課題があると考えられます。

<情報の扱い方に関する事項> 問題 1 2

- 情報の整理の仕方の説明として適切なものを選択する問題の正答率は66%でした。情報と情報との関係付けの方法や、情報の整理の仕方をとらえることに課題があると考えられます。

<話すこと・聞くこと> 問題 3

- インタビューの場面で、質問をした理由として適切なものを選択する問題2問の正答率は79%、81%でした。

<書くこと> 問題 1

- 条件に合わせて文章を書く問題の正答率は30%でした。誤答のうち、8割以上がグラフやカードから分かることなどについて正しくまとめることができていないことから、複数の情報を用いて自分の考えが伝わるように書くことに課題があると考えられます。【問題例参照】

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼにええを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アいがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとくらべてみました。うきさんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしょうかくすることができました。

【課題となっている問題例】

1 二

川村さんは、選んだカードをもとに、次の【川村さんの文章】の□に学校の米作りの問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、□に入る内容をどのように書きますか。後の条件合わせて書きましょう。

（条件）

- 学校の米作りの問題点については、【川村さんの文章】のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と【カード④】のそれぞれから分かることを書くこと。
- 問題点の解決方法については、【カード⑤】をもとにして書くこと。
- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

<読むこと> 問題 2

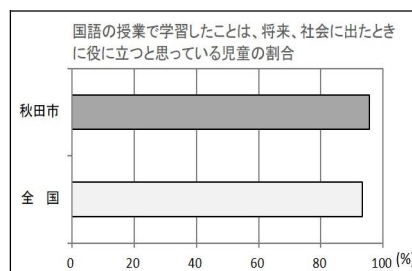
- 資料に書かれている内容として適切なものを選択する問題の正答率は94%でした。
- 資料を読んで分かったことをもとに自分の考えを書く問題の正答率は64%でした。複数の情報を関係付けながら、自分の考えをまとめることに課題があると考えられます。

質問紙調査から「国語の学習について」

「国語の勉強は好きだ」と回答した児童の割合は70%で、全国平均を8ポイント上回っています。

「国語の勉強は大切だと思う」と回答した児童の割合は96%で、全国平均を2ポイント上回っています。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合は95%で、全国平均を2ポイント上回っています。



小学校国語「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、自分の考えを分かりやすく話す力、互いの立場や意図を明確にしながらかし合う力、音読や朗読する力など、音声による表現力があります。

各校では、単元の構成や学び合いの場面における手立てなどを工夫しており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、詩歌や物語、説明する文章の音読を通して、言葉の響きやリズムを感じたり、言葉や表現の持つ意味を確かめたりするなど、表現する楽しさを味わいながら学習活動に取り組む子どもの姿が見られます。

一方、話し合いの展開をとらえ、自分の意見と比べてまとめることなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、漢字の読みや意味、構成を調べたり、同音異義語を使い分けた短文を作ったりする活動を取り入れるなど、文や文章の中で漢字を正しく使うことができるような指導の充実を図ります。

「情報の扱い方に関する事項」については、互いの情報の整理の仕方について交流する活動を設定するなど、複数の情報を整理することのよさを理解することができるような指導の工夫を図ります。

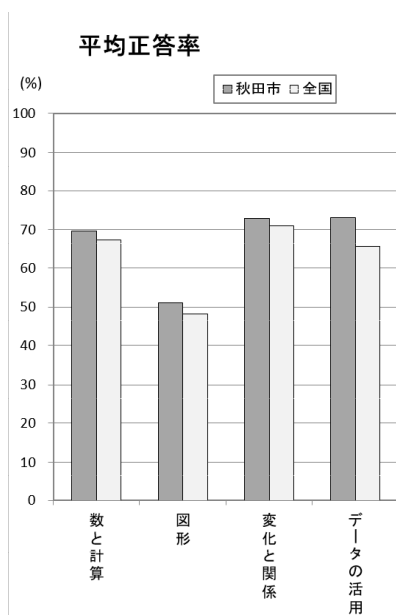
「書くこと」については、分かりやすい表現について考える活動を取り入れるなど、相手や目的に応じて適切に書くことができるような指導の工夫を図ります。

「読むこと」については、複数の資料や本を読んで分かったことをもとに、自分の考えをまとめる活動を設定するなど、情報を関連付けて読み、考えを広げることができるような指導の充実を図ります。

<本調査では測れない学力の状況から>

話し合いの展開や内容を踏まえ、互いの意見を可視化するなどして整理し、様々な視点から検討して考えをまとめる活動を設定するなど、自分の考えを確かめたり広げたりすることができるような指導の充実を図ります。

小学校算数 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和5年度】



<数と計算> 問題 1 3 4

○ 50×40 （一の位が0の2位数の乗法）の正答率は82%でした。

● $66 \div 3$ の筆算の商の意味について、正しいものを選択する問題の正答率は48%でした。筆算と式を関連付けてとらえることに課題があると考えられます。

<図形> 問題 2

○テープを折ったり切ったりしてできた図形の名前を答える問題の正答率は87%でした。

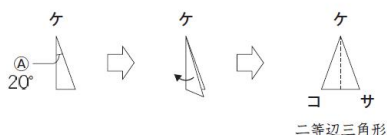
●正三角形をつくるための角度を答える問題の正答率は21%でした。誤答のうち、約5割が 60° と解答していることから、図形の意味や性質をもとに操作の見通しを立てることに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】 2

(3) ゆいなさんとわたるさんは、【えいたさんのつくり方】の③の図で、下の④の角の大きさをそれぞれちがう大きさにしました。



わたしは、④の角の大きさを 20° にしました。切った三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。



私は、切った三角形を正三角形にするために、④の角の大きさをゆいなしとちがう大きさにして切りました。

切った三角形を正三角形にするには、④の角の大きさを何度にするべきですか。

答えを書きましょう。

正答 30°

<変化と関係> 問題 1 4

○椅子の数と椅子を重ねたときの高さの関係を表した表から、椅子が5脚のときの高さを求める問題の正答率は94%、椅子の数と椅子を重ねた高さが比例の関係ではないことを説明する問題の正答率は90%でした。

●割合が30%になるものを選択する問題の正答率は51%でした。基準量に対する比較量をとらえることに課題があると考えられます。

<データの活用> 問題 4

○示された表から、運動した時間の合計が30分以上になった日数を求める問題の正答率は79%でした。

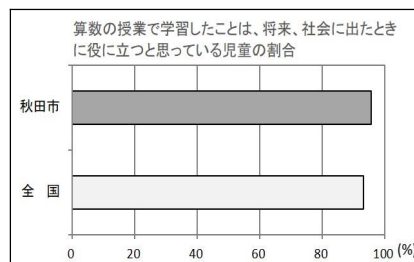
●示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフ読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する問題の正答率は67%でした。複数のグラフからデータの特徴をとらえ、数学的に表現することに課題があると考えられます。

質問紙調査から「算数の学習について」

「算数の勉強は好きだ」と回答した児童の割合は64%で、全国平均を2ポイント上回っています。

「算数の勉強は大切だと思う」と回答した児童の割合は96%で、全国平均を2ポイント上回っています。

「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合は96%で、全国平均を2ポイント上回っています。



小学校算数「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に関するものや、自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き取る力などがあります。

各校では、実生活と関連させた課題を設定したり、既習の内容と関連させて問題解決の見通しを持つ場面を取り入れたりしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、解決した結果について具体物を用いて確認したり、問題解決の過程を図や式などを用いて分かりやすく表現しようと試みたりするなど、主体的に考え、学びを深めていく子どもの姿が見られます。

一方、自分の考えを筋道を立てて説明したり、数学的な表現を用いて簡潔に説明したりすることについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「数と計算」では、筆算を具体物や図で表し、式と関連付けて考察するなど、計算の意味について理解を深める活動の充実を図ります。

「図形」では、図形を構成する要素に着目して、角や辺、面の大きさなどを数値化したり、図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、図形の性質について考察したりする活動の充実を図ります。

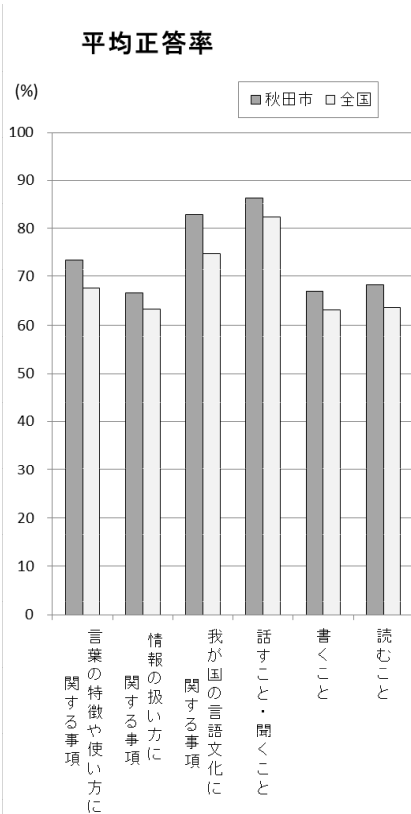
「変化と関係」では、伴って変わる二つの数量を見いだして変化や対応の特徴を考察したり、基準量や比較量を図や式に表したりする活動を取り入れるとともに、割合を用いた比べ方や、比例の関係をを用いた問題解決の方法を日常生活に生かすことができるような指導の充実を図ります。

「データの活用」では、目的に応じてデータを集めて分類整理したり、分類整理されたデータをもとに、目的に応じて分析し、考察する活動の充実を図ります。

<本調査では測れない学力の状況から>

算数における用語や記号の意味を理解し、用いることよさを実感できるような活動や、思考の過程を数学的な表現を用いて説明する活動の充実を図ります。また、具体物や図、式などを用いて解決し、結果を確かめたり、自分の考えと他者の考えを比較・検討したりする活動を取り入れるなど、新たな気づきや理解の深化を促すような指導の充実を図ります。

中学校国語 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和5年度】



＜言葉の特徴や使い方に関する事項＞ 問題 2 3

- 「落胆する」の意味として適切なものを選択する問題の正答率は94%でした。
- 「おし量って（押し量って）」を漢字で書く問題の正答率は53%でした。文脈に即して漢字を正しく書くことに課題があると考えられます。

＜情報の扱い方に関する事項＞ 問題 1 3

- 文章の内容をまとまりで適切に分け、見出しを書く問題の正答率は65%でした。文章に含まれている情報と情報との関係をとらえることに課題があると考えられます。

＜我が国の言語文化に関する事項＞ 問題 2 4

- 歴史的仮名遣い「いひける」を現代仮名遣いに直す問題の正答率は94%、古典の語句「いと」に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す問題の正答率は78%でした。

＜話すこと・聞くこと＞ 問題 1

- インタビューの前に準備したメモの内容の説明として、適切なものを選択する問題の正答率は91%でした。インタビューのまとめとして述べる内容を書く問題の正答率は88%でした。

＜書くこと＞ 問題 3

- レポートに加える具体例を選択し、説明する問題の正答率は76%でした。
- レポートの下書きの一部を直した意図として適切なものを選択する問題の正答率は58%でした。読み手の立場に立ち、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることに課題があると考えられます。

＜読むこと＞ 問題 2 4

- 文章で述べられている内容として適切なものを選択する問題の正答率は79%でした。
- 現代語で書かれた「竹取物語」を読み、表現の工夫などについて自分の考えを書く問題の正答率は56%でした。文章の構成や展開、表現の効果に着目し、根拠を明確にして考えをまとめることに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】

4
三

【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】

(星新一)
『竹取物語』による。

【授業で読んだ「竹取物語」の一部】

(原文)

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつ、よろのこに使ひけり。名は、さぬきの嶋と名をいひける。その竹の中に、もと光る竹ありける。あやしがりて、密で見ては、節の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとつくろうてあり。

(現代語訳)

今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野山に行き入って竹を取っては、いろいろなものを作っていた。名前を、さぬきの島のみつこいといった。その竹の中に、根とどの光る竹が一本あった。不思議に思っていて、密で見ては、節の中が光っていると、それを見れば、三寸ばかりの人が、とてもかわいらしい様子で座っている。

※正答例は、紙面の関係で省略します。

質問紙調査から「国語の学習について」

「国語の勉強は好きだ」と回答した生徒の割合は68%で、全国平均を6ポイント上回っています。

「国語の勉強は大切だと思う」と回答した生徒の割合は96%で、全国平均を3ポイント上回っています。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した生徒の割合は92%で、全国平均を3ポイント上回っています。



中学校国語「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、自分の考えを分かりやすく話す力、話題や展開をとらえながら話し合う力、音読や朗読する力など、音声による表現力があります。

各校では、資料や教材の提示の仕方を工夫したり、目的を明確にした学び合いの場を設定したりしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、発表や話し合いの仕方を振り返ったり、より分かりやすい表現になるよう吟味したりするなど、表現する楽しさを味わいながら、主体的に学習活動に取り組む子どもの姿が見られます。

一方、話し合いの展開をとらえ、相手の意見を踏まえて質問したり、根拠を明確にして意見を述べたりすることなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、文脈に即して漢字や語句の意味を考える活動を取り入れるとともに、話や文章の中で正しく使うことができるような指導の充実を図ります。

「情報の扱い方に関する事項」については、意見と根拠、具体と抽象、情報と情報との関係について整理する活動を設定するなど、話したり書いたりする場面で活用できるような指導の工夫を図ります。

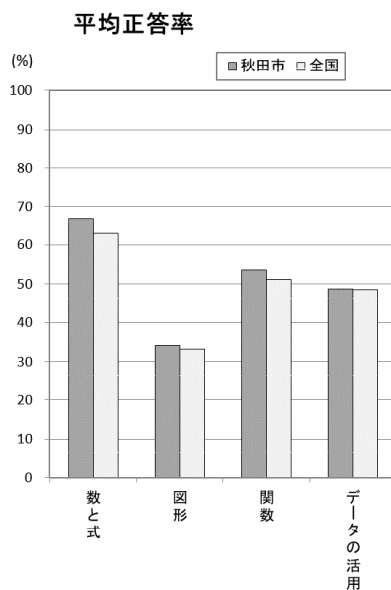
「書くこと」については、読み手の立場に立ち、叙述の仕方を確かめて文章を整える活動を取り入れるなど、目的や意図に応じて分かりやすく書く力を高める指導の充実を図ります。

「読むこと」については、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える活動を通して、読む力を高める指導の充実を図ります。

<本調査では測れない学力の状況から>

話し合いの目的や方向性を確認する場を設定したり、発言の仕方や内容を振り返る活動を取り入れたりとするなど、話題や展開をとらえ、目的に沿って話し合う力を高める指導の充実を図ります。

中学校数学 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和5年度】



<数と式> 問題 1 2 6

○文字を用いた式の四則計算の正答率は85%、示された手順に従って計算結果を求める問題の正答率は91%でした。

●示された5つの数から自然数を選ぶ問題の正答率は46%でした。計算の結果が4の倍数になるための条件を説明する問題の正答率は46%でした。自然数の意味を正しく理解することや、結論が成り立つための条件を見だし、数学的に表現することに課題があると考えられます。

<図形> 問題 3 9

●合同な三角形をもとに、図形の性質を根拠として2つの直線が平行であることを証明する問題の正答率は32%でした。空間における平面が1つに決まる条件を選択する問題の正答率は29%でした。仮定から結論を導く過程を根拠を示して表現することや、空間における直線や平面の位置関係を正しく理解することに課題があると考えられます。

【問題例参照】

【課題となっている問題例】 3

3 空間における平面が1つに決まる場合について正しく述べたものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 1点をふくむ平面は1つに決まる。
- イ 2点をふくむ平面は1つに決まる。
- ウ 1つの直線上にある3点をふくむ平面は1つに決まる。
- エ 1つの直線上にない3点をふくむ平面は1つに決まる。

正答 エ

<関数> 問題 4 8

● y が x に反比例し、比例定数が3であるとき、 x と y の値の関係について正しい説明を選択する問題の正答率は42%でした。グラフや式を用いて問題解決の方法を説明する問題の正答率は48%でした。反比例の意味を正しく理解することや、問題解決の過程を数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられます。

<データの活用> 問題 5 7

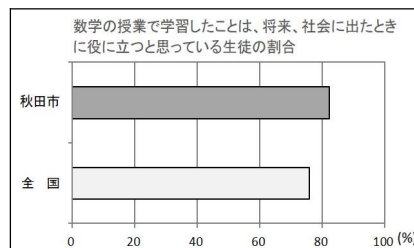
○示された箱ひげ図と表から、四分位範囲を求める問題の正答率は72%でした。
●2つの箱ひげ図を比較してデータの分布の傾向を読み取り、説明する問題の正答率は34%でした。データの分布の傾向をとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられます。

質問紙調査から「数学の学習について」

「数学の勉強は好きだ」と回答した生徒の割合は62%で、全国平均を5ポイント上回っています。

「数学の勉強は大切だと思う」と回答した生徒の割合は90%で、全国平均を5ポイント上回っています。

「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した生徒の割合は82%で、全国平均を6ポイント上回っています。



中学校数学「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に関するものや、自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き取る力などがあります。

各校では、課題の提示の仕方を工夫したり、解決の見通しを持つ場面を設定したりしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、学び合いの場面では、式や図、グラフ等を用いて自分の考えを伝えたり、多様な考えを比較して解法を検討したりするなど、主体的に学習活動に取り組む子どもの姿が見られます。

一方、数学的な表現を用いて簡潔に説明することや、問題解決の過程を振り返り、新たな課題を見だし、考察することなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「数と式」では、自然数や整数などに関する理解を深めることや、問題解決の過程や結果を振り返り、見いだした事柄を数学的に表現する活動の充実を図ります。

「図形」では、立体模型を作成して構成要素の位置関係をとらえたり、図形の辺や角の大きさを測り、その関係を調べて考察したりするなど、観察や操作等の活動の充実を図ります。

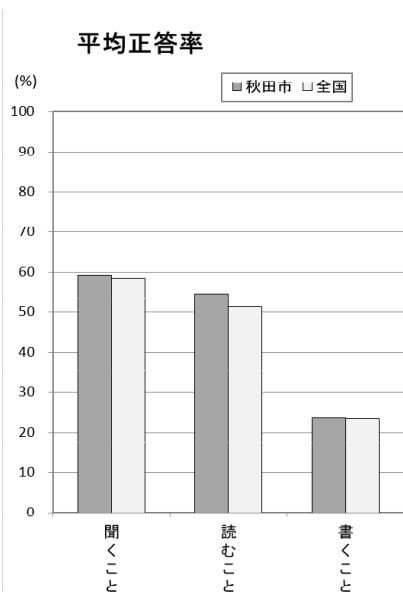
「関数」では、表や式、グラフなどを関連付けて読み取ったり考察したりする活動を取り入れるとともに、問題解決の過程を数学的な表現を用いて説明する活動の充実を図ります。

「データの活用」では、データの分布の傾向を比較して読み取ったり、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりする活動の充実を図ります。

<本調査では測れない学力の状況から>

数学における用語や記号の意味を理解し、用いることよさを実感できるような活動や、思考の過程を数学的な表現を用いて説明する活動の充実を図ります。また、日常や社会の事象を数理的にとらえ、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動を取り入れるなど、新たな気づきや理解の深化を促すような指導の充実を図ります。

中学校英語 領域ごとの調査結果の主な特徴 【令和5年度】



<聞くこと> 問題 1 2 3 4

○部屋の中の様子を説明する英語を聞き、内容を最も適切に表している絵を選択する問題の正答率は85%でした。

●バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する問題の正答率は42%でした。自分の置かれた状況などから、自分にとって何が必要な情報であるのかを判断した上で聞き取ることに課題があると考えられます。

<読むこと> 問題 5 6 7 8

●図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する問題の正答率は35%でした。まとまりのある文章を読み、書き手が述べていることの大まかな内容をとらえることに課題があると考えられます。

ある文章を読み、書き手が述べていることの大まかな内容をとらえることに課題があると考えられます。

<書くこと> 問題 8 9 10

●学校生活の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く問題の正答率は7%、ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く問題の正答率は19%でした。日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、文と文の順序や相互の関連を意識して一貫性のある文章を書くことや、社会的な話題について、賛否や自分の意見、その理由を整理して書くことに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】 8

英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



(注) plate:皿 even if:たとえ~でも apartment:アパート agree with:~に賛成する

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

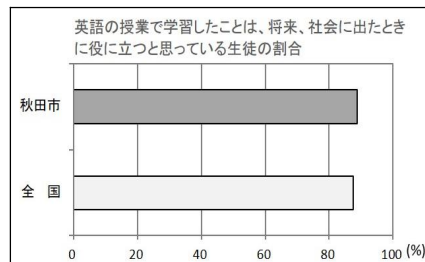
※正答例は、紙面の関係で省略します。

質問紙調査から「英語の学習について」

「英語の勉強は好きだ」と回答した生徒の割合は59%で、全国平均を7ポイント上回っています。

「英語の勉強は大切だと思う」と回答した生徒の割合は89%で、全国平均を1ポイント上回っています。

「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した生徒の割合は89%で、全国平均を1ポイント上回っています。



中学校英語「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査(ペーパーテスト)では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、英語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度などがあります。

各校では、子どもの興味や関心を踏まえた単元のゴールを定め、目的や場面、状況などを明確にした言語活動を設定したり、ALTとのティーム・ティーチングを効果的に取り入れたりするなどの工夫をしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、英語を用いて自分の思いを伝えたり、相手の気持ちや考えを理解したりすることに喜びを感じるとともに、文化の多様性に興味を持つ子どもの姿が見られます。

一方、事実や考え、気持ちなどを、展開や構成を考えて整理し、既習の表現を用いながら相手に分かりやすく伝えることなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

<調査結果から>

「聞くこと」については、状況や目的を明示するとともに、自分が必要とする情報についてあらかじめ考え、どのような語句や表現が使用されているかなどを予測して聞き取る活動の充実を図ります。

「読むこと」については、代名詞や接続表現などを手掛かりに、段落内の文と文との関係を読み取り、各段落の主な内容をとらえた上で、段落間の関係を把握する力を高める指導の工夫を図ります。

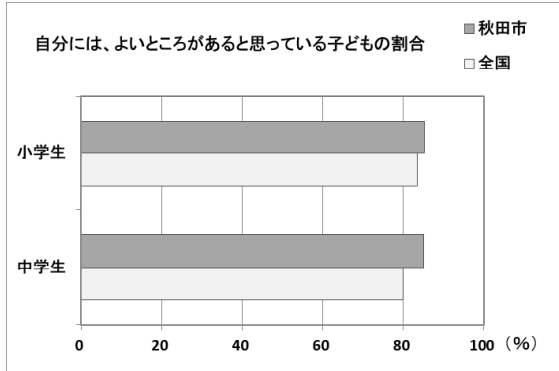
「書くこと」については、事実や自分の考えを伝えたり、出来事を描写したりする際に、文と文の順序や相互の関連を意識して一貫性のある文章を書く活動の充実を図ります。

<本調査では測れない学力の状況から>

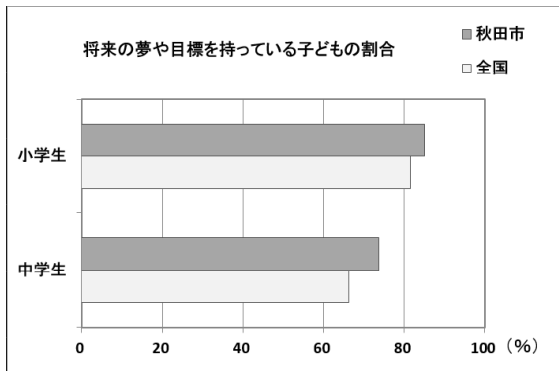
やり取りの場面において活用できる技能を身に付けるとともに、英文を読んで自分の考えを述べる場面を設定したり、相手の発言に対して質問する活動を取り入れたりするなど、即興で伝え合う力を高める指導の充実を図ります。

児童生徒質問紙調査の結果から【令和5年度】

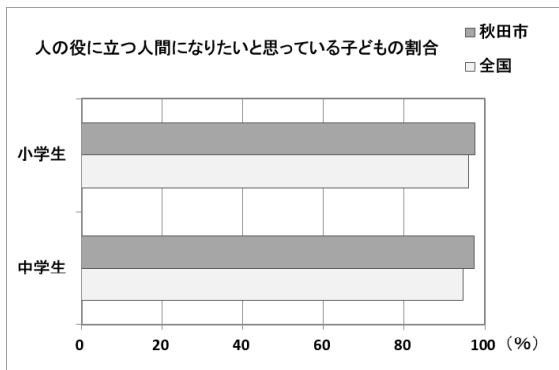
● 自分自身について ●



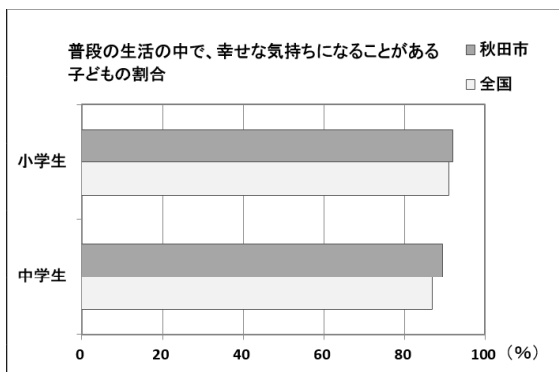
「自分には、よいところがあると思う」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に85%となっており、全国平均を小学生は2ポイント、中学生では5ポイント上回っています。



「将来の夢や目標を持っている」と回答した子どもの割合は、小学生で85%、中学生では74%となっており、全国平均を小学生は4ポイント、中学生では7ポイント上回っています。



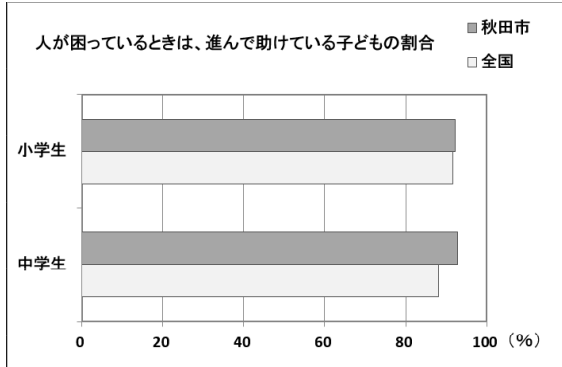
「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した子どもの割合は、小学生で98%、中学生では97%となっており、全国平均を小学生は2ポイント、中学生では3ポイント上回っています。



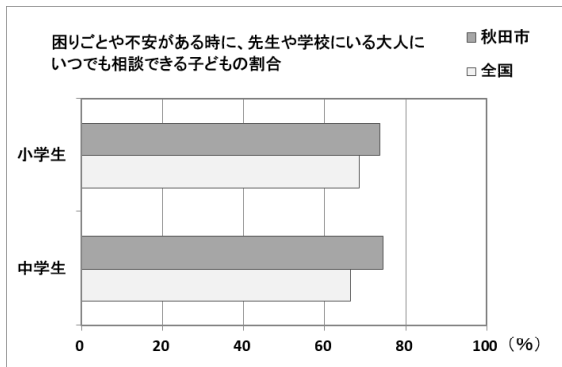
「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」と回答した子どもの割合は、小学生で92%、中学生では89%となっており、全国平均を小学生は1ポイント、中学生では3ポイント上回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【令和5年度】

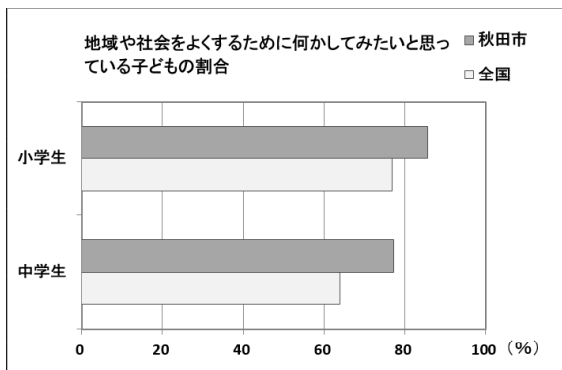
● 人との関わりについて ●



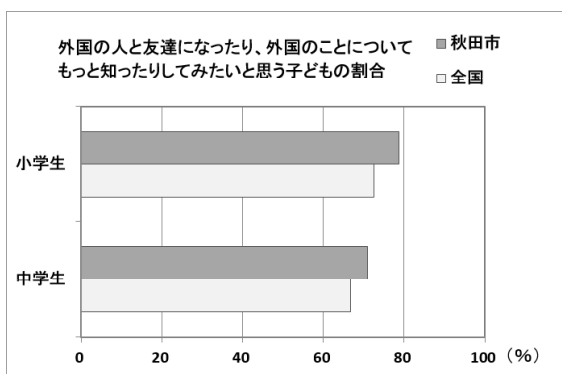
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した子どもの割合は、小学生で92%、中学生では93%となっており、全国平均を小学生は1ポイント、中学生では5ポイント上回っています。



「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した子どもの割合は、小学生で74%、中学生では75%となっており、全国平均を小学生は5ポイント、中学生では8ポイント上回っています。



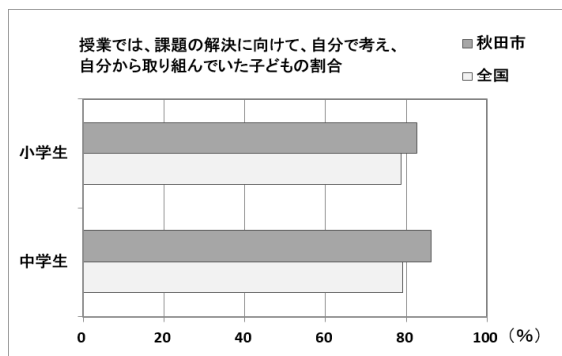
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した子どもの割合は、小学生で86%、中学生では77%となっており、全国平均を小学生は9ポイント、中学生では13ポイント上回っています。



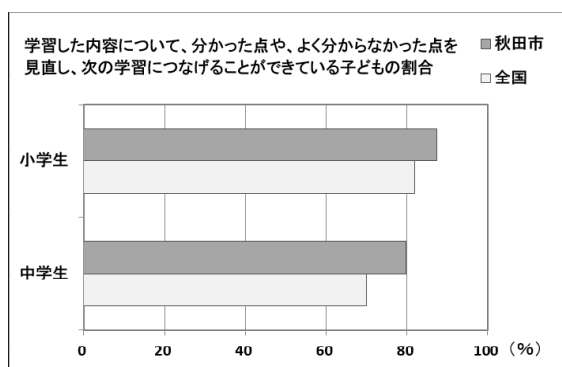
「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う」と回答した子どもの割合は、小学生で79%、中学生では71%となっており、全国平均を小学生は6ポイント、中学生では4ポイント上回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【令和5年度】

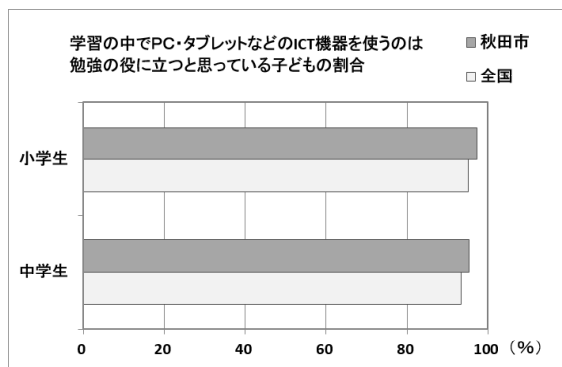
● 学習について ●



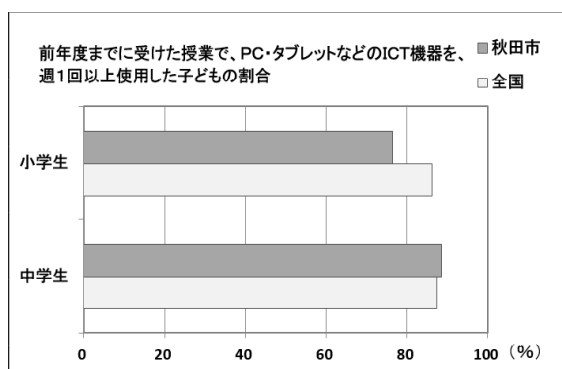
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した子どもの割合は、小学生で83%、中学生では86%となっており、全国平均を小学生は4ポイント、中学生では7ポイント上回っています。



「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した子どもの割合は、小学生で83%、中学生では78%となっており、全国平均を小学生は6ポイント、中学生では8ポイント上回っています。



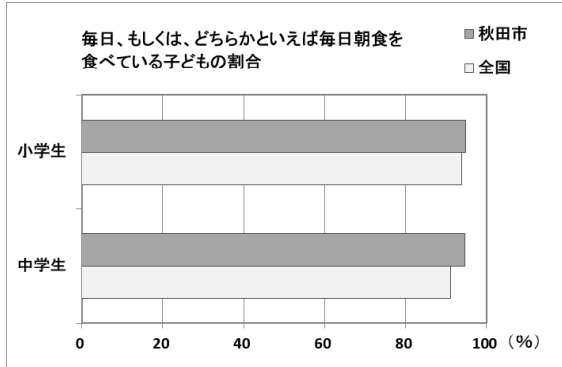
「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答した子どもの割合は、小学生で97%、中学生では95%となっており、いずれも全国平均を2ポイント上回っています。



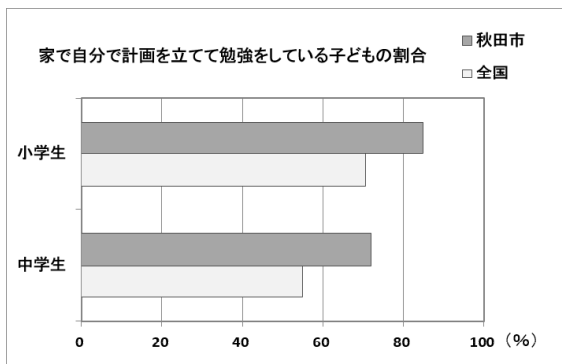
「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用した」と回答した子どもの割合は、小学生で77%、中学生では89%となっており、全国平均を小学生は10ポイント下回り、中学生では1ポイント上回っています。

児童生徒質問紙調査の結果から【令和5年度】

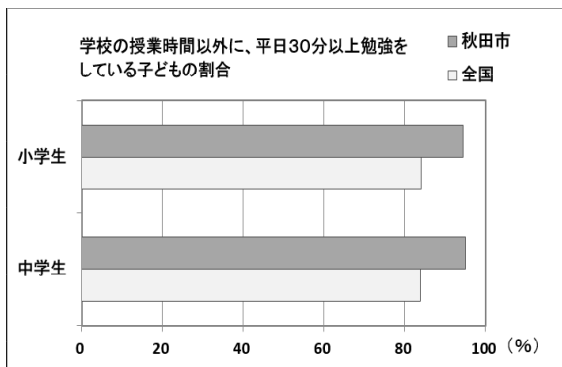
● 家庭生活について ●



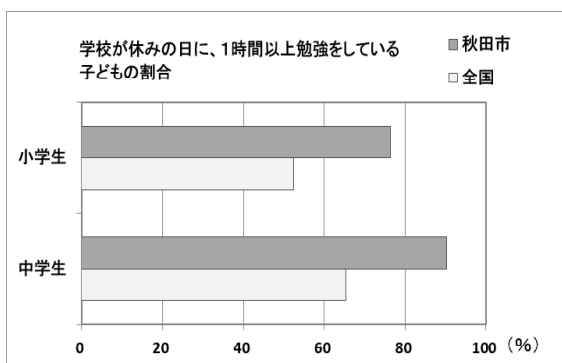
「毎日、もしくは、どちらかといえば毎日朝食を食べている」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に95%となっており、全国平均を小学生は1ポイント、中学生では4ポイント上回っています。



「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した子どもの割合は、小学生で85%、中学生では72%となっており、全国平均を小学生は14ポイント、中学生では17ポイント上回っています。



「学校の授業時間以外に、平日30分以上勉強をしている」と回答した子どもの割合は、小学生で94%、中学生では95%となっており、全国平均を小学生は10ポイント、中学生では11ポイント上回っています。



「土曜日や日曜日などの学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をしている」と回答した子どもの割合は、小学生で76%、中学生では90%となっており、全国平均を小学生は24ポイント、中学生では25ポイント上回っています。